



第101回 渋川摂食嚥下研究会レポート

日時：令和8年10月6日（火）午後7時00分～
会場：渋川ほっとプラザ 4階大会議室

講演 「“食べる”を守る in フィリピン ～歯科と栄養の連携～」

講師 （1）いづか歯科医院 歯科医師 飯塚 正彦 氏

（2）国立国府台医療センター 管理栄養士 林 賢悟 氏

「多職種連携があつてこそ、“食べる”を守ることができる」- 支援には多職種連携が必要であることから始まった講演会。飯塚先生は今までに3回フィリピンへボランティアに行っており、今回の講演では、初めて管理栄養士が同行した3回目について詳しく話してくださいました。

歯科医師の飯塚先生が介入したフィリピンの課題は「歯科保健指導の空白」。フィリピンではむし歯予防を伝える仕組みがないため、むし歯予防が普及せず、結果、噛む力・食べる力が育たないまま大人になってしまうそうです。“食べる”に必要な「歯」を守るため、4,000人分(!)の歯ブラシやフロス等プレゼントし、むし歯の知識や歯磨き指導含めた予防習慣の大切さを、楽しく子どもたちや保護者・教員に伝えた様子を話してくださいました。「みなさんが歯磨きを1年間続けたら、また会いにきます!」と約束して帰ってくるそうです。

管理栄養士の林先生が介入した課題は、「栄養障害の二重負荷（低栄養と過栄養が、同地域に混在している状態）」。フィリピンでは、農村部の低栄養リスクと都市部の過栄養のリスクが混在しており、これらの問題は、経済格差や食料アクセスの差、安価で満腹感のある主食（米）偏重、安価なスナック菓子が入手しやすい環境などの、栄養の質の低下から起こるそうです。“食”を守るため、栄養の質の良いお弁当を1,400食近く(!)配布し、子どもたちにはいろいろな食材を食べる必要性を楽しく伝え、保護者や先生にはお弁当のレシピを配布し、成長期の栄養摂取の重要性を伝えたそうです。

お二人からは「子どもたちの未来を守りたい」という熱い思いが感じられました。しかし理想と現実の乖離は大きく、経済的な問題、食品アクセスの問題、大人の知識不足など、問題が多岐にわたるため、自立のためには継続支援が必要、とお二人とも話していました。子どもたちと交わした歯磨きと再会の約束どおり、先生方が継続して現地に赴き信頼関係を築いていることが、フィリピンの子どもたちの“食べる”を守っているのを感じました。



参加者内訳

職種	計
医師	5
歯科医師	8
薬剤師	1
保健師・看護師	10
歯科衛生士	3
ST・OT・PT	8
管理栄養士・栄養士	9
MSW・相談員	1
ケアマネ	4
介護職員	2
その他	4
合計人数	55



飯塚先生「現地の子どもたちが、自分の身を自分で守れるように支援したい」



林先生「歯科教育と栄養教育の相乗効果で、子どもたちに健康な生活を手に入れて欲しい」

安価で保存可能な食材、現地の味付け・文化を尊重したお弁当を配布。



【講演資料より抜粋】

【次回 第102回 渋川摂食嚥下研究会の予定】

開催について：12月1日（火）午後7時～／渋川ほっとプラザ 4階大会議室

演題：「心血管病予防の食生活」（仮）

講師：渋川医療センター 救急診療科部長 山岸 敏治 氏